

## 平成 29 年度 第 3 回香南市産業振興計画策定委員会 まとめ

■日時：平成 30 年 2 月 2 日（金）10:00～12:00

■場所：天然色劇場 リハーサル室

■出席者：33 名（策定委員 16 人・市職員 16 人・傍聴 1 人）

### 1. 開催目的

- ・分野別部会長をはじめ、有識者や産業関係団体の代表者に出席いただき、分野を超えた横断的な議論を交わす。

### 2. 議題

- ・各分野における平成 29 年度下半期の進捗状況、平成 30 年度香南市産業振興計画（案）、各部会からの報告について

### 3. 内容

- ・担当課及び各部会長より報告を行った後、議論。

### 4. 意見・提案等（要旨）…◆：分野 ○：質問・意見等 ◇：委員長発言 ・：回答等

#### ◆農業

（耕作放棄地）

○耕作放棄地は農業公社を中心に給食米を作っているが、今後も積極的に耕作面積を増やしていくことはできないか。

29 年度 9 月に農地パトロールをして、野市町以外では耕作放棄地が増加傾向にある。

現在の目標値以上に取組を行っていただきたい。

- ・農業委員会と一緒に取り組んでいくことが必要である。H30 年度の 14ha を計画しているが、この時点で、学校、幼稚園などの必要数がまかなえる計算。

その後については、農業公社と話し合い、減ることはないので、他の作物（酒米、餅米など）を検討するなどしていく。（村山農林課長）

◇耕作放棄地になりそうな、事前情報も含めて把握し、継続を検討することについては、重要なこと。一方でどのように担っていくか、農業公社との連携や、卸先の問題があると思うので今が正念場。また、担い手も移住者とリンクさせていくことがあると思われる。

○野市町の耕作放棄地の大半は山沿いで、山の方は水がないので米が作れない。ハードの整備も求められる一方で、畑作で、花を植えて観光地化させた事例もあると聞いているので、そういうことも検討する必要があると考えている。

- 川干しについて、魚も干上がってしまうことに、かわいそうとか愛護の意見が出てきている。市がどこまで見るのか難しいことだと思うが対応を検討してほしい。【要望】
- ヤギの関係であるが、悪臭とか騒音、水質とかの対策をしっかりといただかないと不安であるという声がある。【要望】
- ◇環境の整備などを含め不安の排除は大切なこと。
- ◇今すぐにこうしますと言うことは言えないが、飼育数も含め計画を練り、地域と話しながら、あるべき姿を目指していくべき。
- 経済波及というのは消費需要を伸ばすことが基本的考えであるが、高知県は人材が枯渇しているので、消費を伸ばしても供給に繋がっていない。農業分野の補助金等を見ても「人を作る」ための分野が多いと感じる。人材を見ると5年10年見ないと育たない。次世代ハウスについて、南国市の方でイベントもあるが香南市の方々がそこまで思いがあるのか。物部川流域であれば香南市、南国市がハウスについては多いはずだが。
- ◇次世代型ハウスは県としては地域産業クラスターと連動していく予定。企業の方々がどうコミットするかは重要な因子になってくる。よって県の寄与も重要である。
- 南国市の場合、南国スタイルが中心となり、県の産業振興計画にも載って、クラスターという形でパブリカとピーマンをブランド化して出口までしっかり対応していくことを行っている。出口対策として学校給食や道の駅などに卸している。次世代型ハウスを拡充して川上から川下へという取組を行っている。香南市もそのような動きがあれば、県としても農業クラスターという形で産業振興計画を推進していく。

#### ◆林業

- 花粉がひどい状況になっている。東京では花粉が出ない日とかいうのが出ている。こちらでも対策を検討してほしい。
- ・間伐後にそういった対応ができるだろが、現時点ではそこまで対応することは困難と思われる。(村山農林課長)

#### ◆水産業

- タンカーの事故等で重油等が流れてきた場合、現時点ではどのような対応を考えているのか。
- ・油膜の対策については、市では現在ない。高知県の港湾の管理課に確認する。(猪原商工水産課長補佐)

#### ◆商工業

- 空き店舗対策事業について、商工会も携わっている。空き店舗の情報発信ということで、不動産屋と連携して情報を一部発信しようと考えている。また、空き店舗補助金

の率もいいので、セットにして推進していきたいと考えている。そのために商工会のHPの一部を変更することも検討している。【報告】

○チャレンジショップについて、ヤ・シィパークの空き店舗を活用できないかということで話が出ていた。県の補助金の活用もできるかどうかを含め現在検討しているが、ヤ・シィパークさんのお考えもあると思うので、その調整も図っていく。【報告】

・チャレンジショップ全体を考えたときの例えばということで市長より話が出ていた。そこも含めて検討するように商工水産課へ話もしているところ。(田内委員 副市長)

・チャレンジショップについては課で検討しているが、今現在、県が出している方針では商店街という縛りがあり、ヤ・シィパークはそれに当たらないので、それをどうとらえていくかが課題。(猪原商工水産課長補佐)

◇ヤ・シィパークのお考えも大切であるので、その調整を行う必要がある。ただし、制度に当てはまらないが故に断念することは非常に残念であるので、どのようにすれば解決できるのか、県に強く要望するなど協議していただきたい。

○商店街などは倒産より廃業などが多い傾向にある。人材を育てていかないと商工会の維持にも繋がる。

○商工会の組織率については、実際は厳しい状況であるが、様々な相談窓口機能を商工会も持っているので、フルに活用していただく組織作りと窓口を作っていくと考えている。

#### ◆観光

◇観光には4つの要素(自然・気候・文化・食)がある。インバウンドの競争で優位にたつには、4つに強みがあることが必要。また、この事をいかにターゲットに伝えられるかが大切。

◇ドイツには「Urlaub(ウルラウプ)」という長期休暇があり、ターゲットはドイツ人の女性が良いと思われる。また、ドイツの観光に対する考えを調べ、反映させていくのはどうか。

◇国は、訪日外国人観光客の拡大に向けた具体策をまとめる「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」において、訪日外国人観光客数の目標人数を倍増させ、平成32(2020)年に4千万人、42(2030)年に6千万人とするとしている。4つの要素の体験メニューなどを作ることで、直接的・間接的に産業振興に繋がっていくと考えている。

◇「観光」を切り口とした取組を検討し、バックキャスト(逆算)していく考え方を取り入れていくことも必要。

○市外の歴史の好きな方との話で、市役所の北の忠霊塔の東にお寺の跡があるが、草もつれで大変。市の方で整備できないか。史跡の案内の観点からの整備が必要ではないか。【要望】

○塩の道保存会から赤レンガを活用して塩作りをしてみてはとの意見があった。検討を  
して見てほしい。【要望】

◇観光の体験としてはいいヒントであるので検討してみてはどうか。

○インバウンドについて、言語の整備が香南市は弱いと感じている。表示、サインだけ  
ではなく、スマホのアプリ等を活用することも考えるべきで、その場合、Wi-Fi の整  
備も必要となる。すぐに対応できる整備は、観光の誘致に自信を持って推進できる。

◇日本中の観光のHPは日本語をただ英語表記にしているだけで、本当に求めている歴  
史的価値などの情報がない状態。この城は 160X 年に建てられたなんて情報をHPで  
知りたいわけではないし、どれくらい貴重で魅力があるのかという価値を知った上で、  
その後、現地でその歴史的背景を知りたい。参考となるHPは和歌山県。ネイティブ  
のクリエイターが、最初から英語で作らないと無理。日本中がダメと言われているの  
で、しっかりと意識、ものすごい工夫をするとトップを走ることができる。その点は  
少しご覧をいただければと思う。

#### ◆住宅

○本庁建設予定地北から出てきた遺跡はどこに行ったのか。

・確認して回答する。(寺内住宅管財課長)

#### ◆その他

(ゴミ)

○ゴミ回収について、香我美町別役の方より回収に来ないという声が聞こえる。ここで  
言うことではないかもしれないが対応を。【要望】

(スポーツ×観光)

○観光協会として黒潮町のスポーツツーリズムについて視察に行く。黒潮町は観光課だ  
けが動いているわけではなく、スポーツ関連課と連携をしている。香南市の場合で言  
えば生涯学習課になる。しかし、産業振興ということで、生涯学習課との連携はない  
と思うのだが、そうではなく、連携をしながらいろいろ進めていってほしい。  
塩の道トレランも観光という部分もあるがスポーツであるから、その連携を活かして  
いくことが必要であると思われる。

◇スポーツツーリズムについて、スポーツはスポーツで切り離してしまうとツーリズム  
にはならない。文化財の保護と施設の活用のリンクは難しいと思うが、新しい連携を  
生むことで進むこともある。前向きに取り組むことを柔軟に検討していただきたい。

・組織の連携について、機構改革の話までは今話すことはできないが、市としても対応  
できる体制は当然考えていかなければならない。観光協会さんと話をしながら、携わ  
れる部分については考えていく必要があると思う。(田内委員 副市長)

○黒潮町の場合、幡多郡 6 市町村の連携が密であり、6 市町村でスポーツツーリズムを

進める機運があった。一番問題だったのが窓口。観光と教育委員会で取り組むことについて問題がなかったが、情報共有をすることから始めるための仕組み作りを行い、今では各市町村の観光部局とスポーツ関連課（教育委員会系）の担当者が一堂に会する連絡会で情報の共有が図られている。

◇昨年も合同部会を開催したが、テーマを真ん中において、各部会、担当者が一堂に会して前向きに横串を刺して中で話し合うことは必要。今後、産業振興計画策定委員会、各部会の活性化を目指す中で非常に大切な話であった。

○生涯学習で言えば「スポーツ＝体育」であり、難しい部分もあるが、それに加えて、香南市単独ではなく、物部川流域と連携した取組も必要であると考えられる。

（PDCA）

◇各分野で素晴らしい補助金など、施策として工夫をし、意欲的に行っているのに実効性が上がっていないのは、枠組みの問題やニーズにできていないことが多い。検討する、引き続き進めるということではなく、制約因子を明確にさせていただき、それを取っ払う、取っ払えないのであれば、その施策は意味がないと思う。PDCAを通して見える化していただくことが求められている。